

専攻医
の主張

故郷に帰って感じたこと

総合病院 庄原赤十字病院 月元 天啓

消化器内科レジデントの月元天啓と申します。現在広島県北東部に位置する庄原赤十字病院で内科として勤務しております。

私は広島市で生まれた後、庄原市で幼少期を過ごしてきました。当時は病気がちで通院が多かったこともあり、その際にお世話になった医療関係の方々に尊敬の念を抱き、漠然と医師を目指すようになりました。しかし、大学に入学後も具体的にしたい診療科は決まっていませんでした。多くの生徒が臨床実習で自らの進路に合わせた診療科を選択して実習していましたが、私は進路に迷っていたため、内科実習の他に外科の縫合セミナーや小児科診察など、さまざまな診療科で実習に参加していました。

大学6年の時に、消化管精査のため実際に内視鏡検査を受ける機会があり、そのことがきっかけで内視鏡操作に興味を持ち、消化器内科に進むことを意識するようになりました。初期研修修了後は北部医療センター安佐市民病院の消化器内科で研さんを積みました。この病院は全国的にも消化管内視鏡検査及び治療に力を注いでいる病院で、1日に多くの検査治療を行うこともあったため時に多忙でしたが、おかげで非常に多くの症例における内視鏡手技を経験することができ、自らのスキルアップにつながったように感じております。

現在庄原市で一般内科として勤務している庄原赤十字病院は、消化器疾患のみならず多くの診療科において幅広く疾患を診る必要がある総

合病院です。この病院で勤務するにあたって、私は日々の診療が総合診療に傾斜するあまり、本来経験すべき専門科業務がおろそかにならないか心配しておりました。しかしながら、結論から申しますとその心配は全く必要ありませんでした。病院のある庄原市は県内最大の面積を有する中山間地域で、地元の多くの方々が健診や消化器病の精査にあたり内視鏡検査、治療を必要としています。このような方々に必要に応じた精査加療を行うことが、消化器内科としての私の責務だと考えております。また、このような方々は消化器疾患以外にも、高血圧症や糖尿病などといった基礎疾患も持ち合わせていることが多いのが現状です。これらの疾患を一般内科で併せてケアすることで、より包括的に患者の健康をカバーできると考えております。

実際に現在働いている中で、時に救急外来で小児や整形外科患者に対し診療したり、縫合などの応急処置を行ったりすることもあり、学生の頃に幅広い診療科の実習を行ったことが期せずして現在の診療に生きていると実感しております。今後の高齢化社会では、専門領域とその他の診療知識を両立させたジェネラリストな医師がますます必要とされることが予想されます。消化器内科として専門技術の腕を磨きながら、かつ地域社会に深く根ざした総合診療の提供も続けることで、生まれ育った故郷の地域住民の健康向上に寄与していきたいと考えております。

厚生労働省・介護医療院公式サイトについて

厚生労働省では、介護医療院の円滑な開設に向け、ハンドブック等を作成、公表をしているところです。

介護医療院に関する疑問や課題についてご相談ください。

- ・介護医療院公式サイト

<https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryuin/>

- ・介護医療院開設に向けたハンドブック(令和4年3月版公開中)

https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryuin/assets/docs/kaigoiryuin_3.pdf

- ・「別冊資料集」(令和4年3月版公開中)

https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryuin/assets/docs/kaigoiryuin_11.pdf